

平成29年度 公益財団法人 日本体操協会

第4回理事会議事録

1.日 時 平成30年3月9日（金） 18時00分～20時00分

2.場 所 岸記念体育会館 5F 504・505会議室

3.出席者 <理事>

二木会長、塚原副会長、石崎副会長、山本専務理事、遠藤常務理事、
竹村常務理事、竹内常務理事、水鳥常務理事、塚原千恵子常務理事、
山崎常務理事、中田常務理事、米田常務理事、荒木理事、田中理事、
田坂理事、村木理事

16名

<監事>

高橋監事

1名

(欠席)

具志堅副会長、福井理事、加納理事

3名

竹田監事

1名

<オブザーバー>

小竹英雄地域委員長（顧問）

渡辺 FIG 会長（顧問）

2名

4.議 題

4-1.審議事項

- | | |
|--------------|--|
| (1) 専務理事 | 定款変更について |
| (2) 専務理事 | 2017年度第2回評議員会開催に関する事項 |
| (3) 専務理事 | 2018年度予算について |
| (4) 専務理事 | 2023年世界体操競技選手権特定資産扱いについて |
| (5) 総務委員会 | 登録規程改定について |
| (6) 総務委員会 | 国立スポーツ科学センタートランポリン専用練習場利用
規程の改定について |
| (7) 体操女子強化本部 | 2018年アジア競技大会選考方法変更について |

(8) 体操男子強化本部 2018年アジア競技大会選考方法変更について

4-2.報告事項

- (1) 専務理事 2018年度政策方針
- (2) 各強化本部 2018年度強化方針
- (3) 女子体操・新体操・トランポリン男女強化本部
2018年世界選手権大代表選考方法
- (4) 総務委員会 ホームページ運用管理規程の見直し
(新) ソーシャルメディア運用管理規程
- (5) 東京五輪プロジェクト 2020東京オリンピック人選について
- (6) その他 (FIG 会長) FIGの最新動向等について

5.二木会長挨拶

4月14日(土)にワールドカップ東京大会が開催される。年間シリーズチャンピオンを決める大会、ぜひ、参加して欲しい。更に4月6日から8日にかけてアーバンスポーツの大会「FISE広島2018」が広島市で開催される。他に、コーチ・選手との問題が某協会では話題となっているが、当協会も十分に留意して欲しい。

6.渡辺FIG会長挨拶

2021年度以降のFIGの取り組み等は、報告事項その他で資料により報告する。

7.議長の選出

定款第7章第38条(理事会議長)の規定により、二木会長が議長に就任した。

8.権限審査

本日、理事会の理事出席者は16名であり、定款第7章第39条の定足数10名を超えているので本会議は合法的に成立していることを渡邊事務局長より報告した。

9.議事録署名人

議長は、議事録署名人として議長と米田常務理事の2名を指名し、議場に諮り、全員が賛同した。

なお、出席の高橋監事は定款第43条第2項の規程により、理事会議事録に記名押印することとなる。

10.審議事項

第 1 号議案 定款変更について

山本専務理事は、資料に則り、下記のとおり説明を行なった。

(経緯)

現行定款は、公益法人移行時に内閣府の指導により、役員等の減員が指示され、顧問も若干名おくことができると制定。

(問題点)

平成 29－30 年度役員改選時に顧問について審議したが、過去、協会に貢献いただいた諸先輩に対し、若干名に限定するのは、失礼に当たるため顧問は留任となり、26 名となったものである。

(今回改正内容：第 8 章第 44 条) 若干名を削除

変更前 この協会に顧問を若干名おくことができる。

変更後 この協会に顧問をおくことができる。

議長は、山本専務理事の説明に対し、質問・意見の有無を確認し、議場に諮った。特に意見もなく、第 1 号議案は原案通り、承認・可決された。

第 2 号議案 2017 年度第 2 回評議員会開催に関する事項

山本専務理事は、資料に則り、下記のとおり説明を行った。

定款第 36 条第 1 項の規定にもとづき評議員会の日時、場所、議題等の決定により次の通り、開催する。

1. 日時 2018 年 3 月 25 日 (日) 13:00～
2. 場所 フォーラム 8 (エイト) 622 号室
3. 議題

【審議事項】

- (1) 定款変更の件 (顧問の人員)
- (2) その他

【報告事項】

- (1) 2018 年度予算について
- (2) パルクール委員会新設について
- (3) 2020 年アジア選手権大会立候補について
- (4) 2023 年世界体操選手権大会立候補について
- (5) 2023 年世界体操選手権大会特定資産扱いについて
- (6) 2018 年世界選手権大会選考方法について
- (7) その他

議長は、山本専務理事の説明に対し、質問・意見の有無を確認し、議場に諮った。特に意見もなく、第 2 号議案は原案通り、承認・可決された。

第3号議案 2018年度予算について

渡邊事務局長より、資料に則り、下記説明を行った。

(予算規模) 金額単位：千円

	2018年度	2017年度	増減	
経常収益	1,401,550	1,214,566	188,534	
経常費用	1,104,922	873,468	231,454	
管理費	159,157	157,117	2,040	
収支 計	137,471	183,981	▲44,960	
特定資産	100,000	150,000	▲50,000	
収支 尻	37,471	33,981	3,490	110%

(会計区分別収支) 金額単位：千円

	公益会計	収益会計	法人会計	合 計
収 入	893,290	508,260	0	1,401,550
支 出	1,058,722	46,200	159,157	1,264,079
収 支	▲165,432	462,060	▲159,157	137,471

2018年度の予算の特徴、強化本部・委員会等の状況、公益会計、収益会計の状況等を説明した。

課題として、各事業の効果的投資の実施、スポンサー収入等の拡大、新会館への移転対応（来年夏以降）の説明を行った。

議長は、渡邊事務局長の説明に対し、質問・意見の有無を確認し、議場に諮った。特に意見もなく、第3号議案は、原案どおり、承認・可決された

第4号議案 2023年世界選手権特定資産扱いについて

山本専務理事より、資料に則り、下記説明を行った。

当協会規程「特定資産等規程」により、理事会承認手続きが必要。

1. 大会名称 2023年世界体操選手権大会
2. 大会期間 2023年10月（詳細日程未定）
3. 開催場所 東京 会場未定
4. 活動期間 2017年度より2023年度
5. 積立限度額 約7億円程度。毎年1億円ずつ、積立て、大会費用を賄う予定。toto助成金活用、スポンサー収入等の確保も目指す。

議長は、山本専務理事の説明に対し、質問・意見の有無を確認し、議場に諮った。特に意見もなく、第4号議案は、原案通り、承認・可決された。

第5号議案 登録規程改定について

遠藤総務委員長より、資料に則り、下記説明を行った。

前回理事会において、2018年4月より、当協会にパルクール委員会新設が承認され、そのことに関して、パルクール競技者の登録の追加改定を行うもので、具体的には、第1、3、4、6、及び16条を追加するもの

議長は、遠藤総務委員長の説明に対し、質問・意見の有無を確認し、議場に諮った。特に意見もなく、第5号議案は、原案通り、承認・可決された。

第6号議案 国立スポーツ科学センタートランポリン専用練習場利用規程の改定について

遠藤総務委員長より、資料に則り、下記説明を行った。

実質的な担当者である、中田トランポリン男子強化本部長より、当日資料をベースに説明を行った。全日本選手権大会出場している団体で、従来の1団体8,000円を、1名1,000円に改める。従来の不公平制度の改善が主目的。

塚原副会長より、ナショナル強化指定選手とバッティングはないのか、との質問に対して、中田本部長より、特にないとの回答がされた。

議長は、中田トランポリン男子本部長の説明に対し、質問・意見の有無を確認し、議場に諮った。特に意見もなく、第6号議案は、原案通り、承認・可決された。

第7号議案 2018アジア競技大会女子日本代表選手選考方法の変更について

塚原体操女子強化本部長より、資料に則り、下記の説明を行った。

JOCより、3月6日に代表選手数が6名から5名に変更になると報告があったことを受けて選考方法の見直しを図ることとなった。

①第72回全日本個人総合選手権（予選）

②第72回全日本個人総合選手権（決勝）

③第57回NHK杯

上記競技会の個人総合得点を合計した上位5名を選出。世界選手権代表選手6名を除く7位から11位の5名を日本代表選手とし、12位を国内補欠とする。（現地派遣はせず）

議長は、塚原女子体操強化本部長の説明に対し、質問・意見の有無を確認し、議場に諮った。特に意見はなく、第7号議案は原案通り、承認・可決された。

第8号議案 2018アジア競技大会男子日本代表選手選考方法変更について

水鳥男子強化本部長より、資料に則り、下記の説明を行った。

代表選手数の変更に伴い、選考方法を次の通りとする。

世界選手権代表選手5名を除くチーム得点（ベスト3）最上位チームのメンバー5名を日本代表選手とし、NHK杯次点選手を候補選手とする。

（チーム構成）

- | | |
|-------------------------|----|
| ①個人総合上位者 | 3名 |
| ②チーム貢献得点選出者D（個人総合12位以内） | 1名 |
| ③チーム貢献得点選出者E | 1名 |

チーム得点（5選手のベスト3）を算出する。その他は省略。

議長は、水鳥男子強化本部長の説明に対し、質問・意見の有無を確認し、議場に諮った。特に意見はなく、第8号議案は、原案通り、承認・可決された。

11.報告事項

第1号 2018年度政策方針

山本専務理事より、資料に則り、下記説明を行った。

スローガン 「一致団結」

2017年の成績と反省

2018年世界選手権での目標

一般体操、アクロ体操、男子新体操、

組織ガバナンス・指導における暴力、セクハラへの対策強化

体操ニッポンを支える地域の役割

国際体操連盟の取り組み

むすび

第2号 2018年度強化方針（各強化本部）

【体操男子】

・東京オリンピックに繋がる強化

（目標）

世界選手権：団体総合、個人総合、種目別金メダルを含む複数メダル

東京オリンピック団体総合出場権の獲得

【体操女子】

(目標)

世界選手権：団体、個人、種目別メダル獲得

東京オリンピック団体出場権の獲得

【新体操】

・団体はフェアリージャパンPOLAメンバーの強化続行

・個人はターゲット選手の強化続行

(目標)

団体は東京オリンピック出場枠獲得（団体総合メダル獲得）

個人は個人総合メダル獲得、種目別メダル獲得

【トランポリン男子】

・第2自由演技での決定力強化

(目標)

個人競技・シンクロ メダル獲得

【トランポリン女子】

・2019年の東京オリンピック2枠獲得のため、跳躍力、体力増強

(目標)

個人複数名の入賞、シンクロ メダル獲得

第3号 2018年度世界選手権代表選考方法について

(体操男子は12月理事会で報告済)

【体操女子】

・個人総合で代表選手 6名を選出

1. 第72回全日本個人総合選手権（予選）

2. 第72回全日本個人総合選手権（決勝）

3. 第57回NHK杯

上記競技会の個人総合得点を合計した上位者

【新体操】

団体：フェアリージャパンPOLAを日本代表チームとする

(出場メンバーは、強化本部長、ヘッドコーチで原案作成)

個人：個人選手 2 枠は、特別強化選手（皆川夏穂、喜田純鈴）を日本代表とする
残り 1 枠は、日本代表選考会(4/21-22,高崎アリーナ)の 1 位選手を日本代表とする

【トランポリン男女】

1 次選考会（5/19-20）全日本年齢別選手権の 1 位選手は男女とも日本代表に内定（派遣標準得点をする事が条件）

男子：56.500 予選・決勝の第 2 自由演技どちらか

女子：152.000 予選（第 1,第 2 自由）・決勝(第 2)の合計

最終選考会（6/29-30）全日本種目別選手権の 1 位選手を日本代表に決定する
2 位以下の選手得点と一次選考会の 2 位の得点を比較し上位順に選考（派遣標準得点に達していない選手は原則派遣見送り）

日本代表選手は 5 名（5 位選手はシンクロ競技代表として選出）

（タンブリング・ダブルミニトランプ競技）

最終選考会（7/7-8）全日本タンブリング・ダブルミニ競技大会予選の第 1・第 2 パスの合計得点で最大上位 4 名を日本代表に決定する

（以下の派遣標準得点に満たない場合は派遣見送り）

タンブリング競技：男子 63.0、女子 60.0

ダブルミニトランポリン競技：男子 71.0、女子 67.0

第 4 号 ホームページ運用管理規程改定について

遠藤総務委員長より、資料に則り、説明を行った。

現在、協会の情報通信媒体は、ホームページのほかにブログ、フェイスブック、Youtube があり、現行規程は、ホームページとブログの運用についてのみ。

実態に合わせて改定をおこない、名称もホームページ運用管理規程から改名してソーシャルメディア運用管理規程とする。

第 5 号 東京五輪PT 2020 東京オリンピック人選について

遠藤スポーツマネージャーより、下記説明を行った。

サービス・マネージャー 藤井俊明 広報委員会委員

テクニカル・オペレーション・マネージャー 竹内輝明（審判委員長）

種目別テクニカル・オペレーション・マネージャー

体操競技 竹村英明（事業委員長）

新体操 プレスリー明日香（事業委員）

トランポリン 石田正人（事業委員）

第6号 F I Gの最新動向等について

本日、出席の渡辺F I G会長より、資料に則り、下記報告があった。

(1) アメリカ体操界における選手への性的暴行の再発防止策について

FIGは再発防止策として3つの柱を設定した。

1つ目の柱は各国協会への指導、教育を徹底する(FIG Safeguarding Unit)

2つ目の柱はアスリート委員会内にネットワークを構築し、選手間による通報システムをつくる。

3つ目の柱はFIGからの独立機関として”FIG Ethics Foundation”を創設する。この機関は全世界の体操選手たちのヘルプデスク、レスキューセンターとなる。役員構成は体操関係者ではなく、法律家、弁護士が中心となる。したがって、ここに選手が通報をした後は、粛々と事実確認が法律事務所レベルで行われ、国際法に則った法律レベルで裁かれる。体操界の常識やFIGは関与できない。事件が発生した国の協会はFIGより処罰され、選手・役員は大会に参加できるが所属はFIGとなり、国旗、国歌は使用できなくなるという厳しい処分が成される予定だ。FIGは全スポーツのロールモデルとなる。日本体操協会には、今から環境整備を進めていただきたい。

アメリカにて被害者と被害者家族との面談を実施した。

ドクターによる性的暴行事件は表面上の問題であり、その根本はコーチのあり方に言及されてくる。今後はコーチと選手のあり方が、大きな課題となる。コーチはどうあるべきか、指導方法等今までの常識を変える必要あろう。

(2) 2021年以降の世界選手権大会、WC等の方向性

- ・ 現行の世界選手権は大会期間が長い、競技参加者のレベルのバラつき、開催地の財政負担大、等のマイナス要因が多いため運営方法の見直しを検討している。

大陸選手権を世界選手権の予選とする。

世界選手権を団体・個人総合選手権と種目別選手権に分離開催とする。

- ・ ジュニア世界選手権は2年に1回開催する。

(3) 体操器具の値段について

- ・ 体操器具が高価なことが体操の普及発展を阻害しており、昨年のFIG会長就任時に販売価格を4年後に70%、8年後に半額をFIGの目標とした。
- ・ セノー(30百万円)、Janssen(14百万円)、Gymnova(14百万円)、Taishan(6百万円)の比較
- ・ FIG会長の職務は世界体操界の発展が責務であり日本人だから日本の企業

を支持するということは出来ないということだけは明言をしておきたい。

11.閉 会 議長は、すべての事項の終了を確認し、20時に閉会を宣言した。

平成30年3月9日

議 長 二木 英徳

議事録署名人 米田 功

議事録署名人 高橋 史安